

# 羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職を目指す学生・卒業生のために

# COMPASS

第 111 号 2015.10.31(土) 発行

関西外国語大学

教職教育センター

SCET

## 平成 28 年度採用の教員採用選考の結果が ほぼ固まりました。

教職教育センター 所長 角野 茂樹

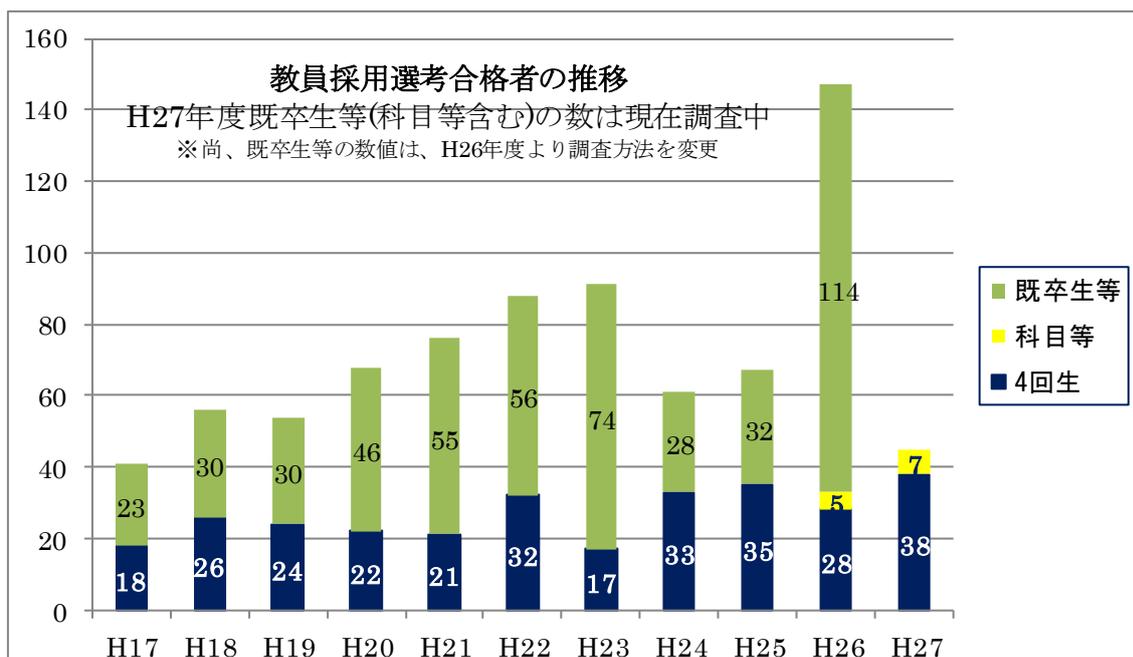
夏の暑さがおさまり、たいへん爽やかな秋本番をむかえました。ICC の中庭では陽だまりに学生が集い楽しい会話がはずんでいるようです。学園祭のこと、ハローウィンのこと、留学や旅行のことなど話は尽きないようです。

そんな中に、教員採用選考を受験した 4 回生・科目等履修の学生が、互いに健闘を称えあう姿が見られ印象的です。この一年間、教員採用選考に向き合い、自主ゼミを開催し切磋琢磨して、長い夏の選考を乗り越えてきた結果、今日を迎えています。合否いずれにしましても、来年の 4 月から全国の小・中・高等学校の教壇に立ち、児童生徒に教育指導を行います。

これまで、合宿、夜スペシャル、採用スペシャル、サマースペシャルの特別講義を支えていただいた先生方、教職教育センターのスタッフの応援、それに応え努力を惜しまなかった学生たち、これらの取り組みがこの結果につながったものと思います。

学生のお便りに「先生方のようにいつでも生徒思いな教員をめざします。今いただいた合格は、これからのスタートです。」「一人ひとりの生徒を理解し受け止めることのできる心の温かい先生になります。」と記されていました。これまで、指導してきた先生方の思いが伝わっているようで大変うれしいです。

こんな先輩たちの頑張りを見てきた 3 回生たちも、自主ゼミをスタートさせました。小学校教員コースの 3 回生、中高の英語教員をめざす 3 回生、中宮・学研両キャンパスで、まだまだ暑い秋が続きそうです。また、その熱はまだまだ続き、12 月には学研都市キャンパスのセミナーハウスで合宿を行うこととなっています。



平成28年度教員採用試験結果（2015年10月26日現在）

在学生合格者数 38人（中宮 28人、学研都市10人）

科目等履修性 7人（中宮 5人、学研都市2人）

## 【合格体験記】

**樫原 真理 さん** 奈良県 高等学校 英語科 合格  
外国語学部 英米語学科 4回生

### 「教採、そしてその先に向けて」

皆さん、こんにちは。この度、私は奈良県の高校英語の教員採用試験で合格をいただきました。この羅針盤に私の記事を書いていただけて大変光栄です。

参考になるかは分かりませんが、ここでは、私が卒業に向けて大学生活の中でしてきた3つのことについて書かせていただきます。それは、日々の授業外学習、留学・ボランティア・就職活動、夜スベ・自主ゼミです。

まず、授業外学習です。これは大学に入学してすぐ、1年生の頃からできることです。与えられた課題をきちんとこなす、という当たり前のことが授業外学習を定着づけることに繋がりました。このおかげで、英語力を無理なく上げ続け、教職教養の知識も広げられました。後ほど述べますが、私は

4年生の4月下旬まで留学に行っており、帰国後、就職活動もしていたので、教員採用試験に向けた勉強をする時間はほとんどありませんでした。それでも受かることができたのはこれまでの積み重ねの他にないと思います。来年以降教員採用試験に臨もうと考えていらっしゃる方、少しでも教員になりたいという気持ちがある方、また、どのような進路でも後悔したくない方にはぜひ実践していただきたいです。

次に、留学・ボランティア・就職活動、と3つ並べさせていただきましたが、要はどんなことでも良いので何でも積極的に挑戦するということです。私自身これまでにやってきたことの全てが私を成長させてくれたと思っています。3年生の秋派遣で1年間のリベラルアーツ留学に行き、何事にも立ち向かっていくことで行動力を身に付けることができました。また、感謝することの大切さや、一つひとつの出会いを大切にすることの大切さなどを実感し、人間的にも成長したと思います。ボランティアは帰国後、採用試験の勉強と就職活動を並行しながらも、教師になりたいという気持ちをきちんと確かめるために役に立ち、採用試験でもここでの経験を話すことができました。就職活動に関しては、ぎりぎりまで進路に悩んでいた私の考えを探り出すことと、ある意味面接の練習にもなりました。これまで述べさせていただいたことのおかげで本番でも素の自分を出すことができましたと思います。

最後に、夜スペと自主ゼミ。私が参加したのは帰国直後からでしたが、約4カ月という短い時間で教職の知識をさらに深め、同じように教師になることを志す仲間、という何よりも強いものを手に入れることができました。先生方にもお世話になりながら、朝早くから夕方まで仲間と共に頑張ってきた採用試験対策の日々は忘れられません。周りは採用試験一本という中、就職活動にも追われて遅れを取り、焦りを感じていた日々。それでも最後まで諦めずに頑張ってきたのは真剣にも楽しく一緒に夢に向かう同志がいたからです。最初は乗り気ではありませんでしたが、夜スペも自主ゼミも参加しておいて本当に良かったです。先生方から外大生の強みは仲間だと先輩がおっしゃっていたと伺ったことは本当だったようです。

関西外大に入学してから最初は軽い気持ちで教職課程を履修していたような私でも、ここまで教師になりたいという気持ちを持つことができ、最終的には採用試験合格にまで至ることができました。ここまで頑張ってきたのは、ずっと私を支えてくださった先生方、教職教育センターのスタッフの皆さま、そしていつもそばで見守ってくれた家族がいたからです。そして何より、同じように教員を目ざし、一緒に頑張れる仲間がいたからです。今まで本当にありがとうございました。しかし、採用試験に合格することがゴールなのではなく、これから本番だと思っています。この記事を読んでくださった皆さんも是非、書かせていただいた3つのことを頭に入れて大学生活を送り、将来同じように教師という職に就いて共に頑張れる日が来ることを楽しみにしています。

藤井 大誠 さん 広島県 中学校 英語科 合格

外国語学部 英米語学科 4回生

## 「教員採用試験を終えて」

皆さん、こんにちは。この度広島県の中学英語教師として採用していただきました藤井と申します。採用試験が終わり落ち着いた日々を送っています。教員採用試験は大学生生活の集大成とっていいほど大きなものでした。その道は思っていた以上に大変で、多くの先生方、友人、家族の協力が無ければ合格はできなかったと今になって思います。今回は教員採用試験を受験する予定の皆さんにとって少しでも参考になる部分があればなと思っています。と言ってもこれをやっておけば必ず受かるというものは無いので、自分からは、希望する自治体の分析、教育観、自主ゼミの存在の3点について述べたいと思います。

まず、教職教養の勉強を始める前に自分の受ける自治体の過去問を分析しどんな問題が出ているか5年分分析し、その内容を優先的に勉強していききました。これは問題集を1番はじめからやり始めるより、頻出箇所から攻めることにより大幅な時間短縮になりました。

次に、主に面接で聞かれる内容ですが、「自分は“なぜ”教師になりたいのか」を具体的に考える必要があります。「中学の部活の顧問の先生みたいになりたい」や「英語が好きで、その楽しさを教えたい」などは教師になろうと思った、“きっかけ”であって理由ではないと自分は思います。自分の教育観を一言で表現できるようにしておけば、どのようなことを問われても原点をもとに発言することができ、一貫性を持って話すことができます。

最後に、自主ゼミについてですが、教職ボランティアで出会った仲間に誘っていただき自主ゼミに参加しました。メンバーのほとんどが留学に行くということもあり、スカイプなどを利用し留学中はディスカッションを行ったり、近況報告をこまめに行いました。帰国してからは時間を決め毎日教育に関してディスカッションを行いました。自主ゼミに参加することの意義はこのディスカッションにあると思います。もちろん切磋琢磨できるというのがありますが、トピックに関して自分以外の人の意見を聞ける点にあります。教師になればいろんな教科の先生方と協力して指導を行います。自分の考えが正解なんてことはありません。正解は先生の数以上あります。自主ゼミで意見交換をすることで視野が広がることは自分が証明します。

以上が、教員採用試験を経験し言いたいことです。自分はこの3つがキーポイントだと思いますが、正解はありません。最後に、教員採用試験のみならずサポートして下さった職員の皆様、先生方、先輩同期後輩、家族、そして自主ゼミの皆、本当にありがとうございました。

堀 あかね さん 島根県 中学校 英語科 合格

外国語学部 英米語学科 4回生

## 「教員採用試験に向けて」

私はこの度、平成 28 年度島根県公立学校教員採用候補者選考試験におきまして、合格することができました。そして今回、合格体験記のお話をいただき、自分の勉強方法や経験を通して、少しでも後輩の役に立てたら良いなと思い引き受けました。

まず私は、昨年 8 月から今年 5 月までアメリカにてリベラルアーツ留学へ行っていました。留学中は留学先での勉強に専念するべく、教材等は一般教養についての参考書と、教職教養についての参考書を一冊ずつ持参しました。しかしあまりその勉強へ時間を割くことはできず、対策を本格的に始めたのは帰国した 5 月からでした。帰国後、島根県の一次試験は、一般教養、教職教養、英語の専門教養の 3 つの筆記試験が行われますので、今の自分はこの対策に力を入れるべきか過去問を解きながら今後の計画を立てました。その上で解いた過去問を分析し、一次試験の筆記試験の対策をしました。私は教職教養の勉強を特に力を入れてしなければならなかったのですが、一冊やると決めた暗記用の参考書をやり切りました。筆記試験のアドバイスとしては、自分に厳しく、ストイックに追い込むことです。都道府県によって試験内容は異なりますが、教職教養は特に覚えてしまえば勝ちです。いかに自分に甘んずることなく、日々コツコツ覚えていくかがカギとなってくると思います。

次に二次試験対策についてです。島根県の二次試験は内容盛りだくさんで、個人面接が 2 回、模擬試験、小論文と英語面接がありました。個人面接については、教職合宿でいただいた質問集それぞれに対する自分の答えをまず作り、友人と面接練習をしました。また模擬授業対策は、中学 3 年間の文法事項を書き出し、それぞれに対して行うアクティビティを考えました。また友人等の前で実際に行い、フィードバックしてもらい改善に生かしました。次に小論文は、過去問を解いて、一時間以内で指定された字数書けるよう練習しました。最後に英語面接は、外国人の友達と話す機会を設けて、留学中に培った英語力を低下させないように心がけました。全体的な二次試験のアドバイスとしては、自分の教育観を深めることが挙げられます。面接で聞かれる内容は、どれも教員になってから目の当たりにするものばかりです。「もし自分のクラスでいじめを発見したら」「もし英語嫌いな生徒がいたら」等、もしもの状況を自分なりにイメージして考えることが大切だと思います。そしてそれを一人で考えるだけでなく、周りの友人や先生方と話してみると、より自分の教育観を深めることができます。

このように教員採用試験の対策を通して、私は自分の教育への志をより強くすることができました。その中でも、プレッシャーや緊張を感じくじけそうになった時、先生方やセンターの皆様のお支え、ゼミの仲間の声援によって本調子を取り戻すことができました。そういった方々への感謝を再確認する機会でもありました。来年 4 月からいよいよ教員としての勤務が始まります。ここで得た仲間とのつながりを大切に、より一層島根の教育が盛り上がるよう精進していきます。

岩田 徳子 さん 富山県 中・高校 英語科合格

外国語学部 英米語学科 4回生

### 「人々との繋がりを大切に」

皆さん、こんにちは。この度、私は富山県の教員採用試験を受験し、合格をいただきました。この合格は、私一人で掴んだものではなく、多くの人々の支えがあってこそその合格です。この場をお借りして、様々なアドバイスとご指導をくださった先生方、教職教育センターの方々、先輩方、同じ夢と志を持って一緒に勉強してきた仲間たち、いつも信じてくれた周りの友達、留学先でお世話になった皆さん、そして温かく見守ってくれた家族に、心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

ここでは、これから採用試験を控える方々に、私が合格に至るまでに「学んだこと」、「やって良かったこと」、「大切にしたこと」の3点お伝えしたいと思います。

まず、学んだこと。それは「まず行動してみる！」ことです。私が本格的に、教員になることを意識し始めたのは、大学3回生の時に小学校でボランティアをしたことです。実際に教育現場に足を運ぶことで、先生方や児童との関わりから、毎回新たな発見をし、多くを学ばせてもらいました。これによって、それまではぼんやりとしていた教員志望が、パアッと鮮明に私の中で輝き始めました。また、外大で日本語ボランティアと留学先では日本語チューターを経験させていただきました。この経験は、私に「教えること」に興味を抱かせたと同時に、教える側も「教えられる」ということを見出した素晴らしい経験でした。これらの経験が、「私は教師になるんだ！」という強い意志の原点であり、教員の魅力に気づかせてくれた貴重な体験でした。そこで、皆さんに伝えたいことは、積極的に外に出て、いろんなことにチャレンジすることです。すると、教採においても、経験がものを語り、何と言っても皆さんそれぞれの人生をさらに魅力的なものにすると思います。

次は、やって良かったこと。それは「英語力を高め続けること」です。私が真剣に英語を学習するきっかけとなったのは、一年間のアメリカ留学という夢を叶えるためでした。そのため、まずはTOEFLを活用することで英語力を鍛え、毎日英語に触れることを心がけました。そして、その甲斐あって取得した英検も、教採において自分の英語力を証明する大きな武器となりました。富山県もそうでしたが、いくつかの自治体では、英検（準一級または一級）は、教採においてプラスになることがあります。私の場合も、一般教養・教職教養で自信はなかったのですが、英検による加点で補われた部分もありました。教採を考えている方も、そうでない方も、英語力を磨き続けてください。そうすれば、その努力がいつかきっと評価される日が来るはずですよ。

最後に、私が最も大切だと思ったことは、「一つひとつの出会いを大切にすること」です。関西外大に入学し、これまで多くの人と出会うことができました。人々との出会いは、まさに a whole new world (全く新しい世界) を見せてくれ、私の視野を広げ、たくさんのことを教えてくれました。教採を控えていたときも、人との繋がりの大切さを強く実感しました。強い思いで、富山一本に決意を固めていた私ですが、実際に採用試験の勉強にかかるとなると、限られた時間と情報の中で、焦り、途方に暮れ、勉強の仕方に悩んだ時もありました。そんな時、教職の仲間が私に手を差し伸べ、合格

アルパカに誘ってくれ、一緒に合格までの長い道のりを歩ませてくれました。また、留学中も同じ夢を持つ仲間と自主ゼミをしたこと、教職の仲間が作ってくれたアルパカのお守り、夜スペでの努力は、大きな自信となりました。仲間の大切さを強く意識し、関西外大に来て「本当に良かった！」と実感しています。これから、教採に臨まれる皆さんにも、人々との出会いを大切に、関西外大という最高の環境で素敵な仲間とめぐり会ってほしいと思います。

また、この羅針盤を通して、教員採用試験を考えている方、あるいは教師になるか迷っている方、留学を考えている方やそうでない方に対しても少しでもお役に立ち、参考になればと思います。私自身も、学ぶ姿勢を大切に、次の夢に向かって 歩き出します！

## 相賀 智 さん 三重県 中学校 英語科合格

外国語学部 英米語学科 4回生

はじめまして、こんにちは。私の名前は相賀智と言います。今回、私の出身地である三重県の教員採用試験を受験し、合格をいただきました。そして今回、この羅針盤に私のことを書く機会をいただいたので、少しだけお話をさせていただき、そして私が教員をみざすうえで大切にしてきたことを2点、お話ししたいと思います。

1つ目は、ボランティアです。私が活動してきたボランティアは、大阪府にいる非行少年や少女たちの育成支援を教員OBの方たちや大阪府警察の方たちとの連携で一緒に活動するというものでした。内容は学習支援、調理、地域貢献活動など様々なことをやります。そこで活動する小学生や中学生の子どもたちは1人1人悩みや問題を抱えています。しかし、彼らの多くはその悩みを誰にも言えない環境にいて、学校でも先生には相手にされない、そこから非行に走るという傾向が多くみられると聞きました。

しかし、実際に私が彼らと一緒に活動すると、本当に可愛らしい子どもで、勉強は苦手でも、何か違う特技を持っていたり、本当は優しい子たちだと実感しました。そして、子どもたちと活動を共にして、私自身、子どもたちから学ぶことはたくさんありましたし、大きな力をもらうこともありました。このボランティアを通して、私は教員になりたいというモチベーションの1つを得ました。

私自身、教員採用試験に対して何か対策をしたり、猛勉強をしたりはしませんでした。面接では、ほぼこのボランティアについて聞かれたので、私が感じた事を私の言葉で伝えられたのはよかったのかなと思いました。

そしてもう1つ私が大切にしていたことは、常に「愛」を持つということが大事だと感じました。

先程書かせていただいたボランティアに来る子どもたちの中には、他人から愛情を与えられず、時には家族からも見捨てられた子どももいます。もし、私が教師になることがあるのであれば、私はそのような子どもを必ず助ける、その思いは絶対に忘れてはいけなかったと思います。教師は常に子どもたちの近くにおいて、少しの変化を気付くことが出来る、そして素早く対応が出来る、これが教師の大切な仕事の1つだと考えています。

また、私は TED Talks を英語力向上の為に見ることがありますが、その中の1人のスピーカーが、教師は愛情を常に生徒に与え続ける、ということをお話されていて、私は感動し、そのプレゼンテーションを何度も何度も繰り返し見ました。

そして採用試験の実技の時には、この事を話して、面接官の方からも質問をしていただきました。

以上が私が大切にしてきたことです。正直、私が誰かに何かアドバイスすることなどないと思います。それは私自身全く何も出来ないからです。英語も大学に来てから Be 動詞を習ったくらいです。私のことについて書けば、すごいことなど全くないと思います。たくさんの人からもバカにされてきましたが、その経験があるから同じようなことを感じてきた生徒たちと、同じ目線で話ができるのではないのかなと思いました。私の文章を読んで、少しでもやる気が出た方、悩んでいたのに笑顔になれた方がいたら、私自身幸せです。私ももっと頑張らないといけません、一緒に頑張りましょう。

最後に、この関西外大に入学出来て私の人生は本当に変わりました。その為に助けてくれた、両親、先生方、ボランティア先の職員の方々そして子どもたち、本当にありがとうございました。

## シリーズ⑪ 「心の窓を少し開いて」

### 【授業力を高める】

学校の基本は毎日の「授業」である。授業が子どもにとって楽しく分かりやすいものになっているかどうか、考えてみる必要がある。

子どもが授業に集中できない時は、次の3点である。

- ①学習に興味や関心がない
- ②家や学校で心配事がある
- ③不規則な食事や睡眠不足など、心身が疲れている

反対に子どもが集中できる時は、次の3点だ。

- ①授業が面白くて興味や関心が持てる
- ②元気で体力・気力が充実している
- ③学級の人間関係が良好である

では、「わかる授業」のポイントとは何か。

教師の側から言えば、

- ①教材解釈を十分にし、子どもの興味や関心を引き出している。
- ②多様な学習方法の工夫で授業に変化をもたせている。
- ③先生が明るく魅力的で、子どもに好かれている。

子どもの側から言えば、

- ①次時の学習までに学習意欲が高まっている。
- ②教材に対して生活体験等を持っている。
- ③先生が好きである。

つまり、「楽しい授業」のポイントは、熱意と情熱（明るさ、元気さ、誠実さ）、話術（間の取り方、抑揚の付け方、声の大きさとテンポ）、リズム（導入、展開、まとめのスムーズな流れ、時間配分）にある。

子どもに人気のある授業は、

- ①子どもをほめたり、励ましたり、勇気を与える「ひとこと」がある。
- ②学習の目的を子どもに伝えている。
- ③子どもが主体となって学んでいるという気持ちを持たせる工夫がある。

子どもにワーストな授業は、

- ① 学習の目的が曖昧
- ② 教師の話が長い
- ③ 発問の語尾がない
- ④ 学級集団の人間関係が良くない
- ⑤ 体調不調
- ⑥ 教室が汚く、窓ガラスが破損している
- ⑦ 学習の評価がない
- ⑧ 教材解釈が深められていない

などである。

それ以外の重要な要素としては、コミュニケーションが授業の土台であり、子どもと教師に共感・好感・親近感があること、子どもへの的確な評価が与えられ、「見られ、認められ、あてにされる」ことを子どもは好きで、授業に規律とテンポがあるのもよい。

また、板書の工夫もしたい。それには、板書前には、黒板に何も書かれていないこと、授業中の子どもの意見を取り上げて書くこと、補助線や記号の工夫をすること、板書の分量は、1時間で黒板一面（消して付け加えない）ことなどである。

授業の基本をまとめると、

- ①授業の始まりを大切にする（今日は何を学習するのか）
- ②子どもへの目線（目線を下げない。全体と個を見る）
- ③声の明るさ、さわやかさ（テンションを上げる）
- ④明るく穏やかな表情（緊張すると顔は硬くなる）
- ⑤発問指示の明確さ（言葉は選んで選び抜く）
- ⑥授業の流れをスムーズに（テンポ良いリズム。心地よさ）
- ⑦授業の組み立て（演出に工夫）

編集後記———教職教育センターより———

今年は、10月25日に木枯らし一号が吹いたと気象庁が発表しました。この木枯らし一号は10月半ばから11月末の間に、初めて吹く毎秒8メートル以上の北風で、気象庁は、東京地方と近畿地方でのみ発表しているということです。

この北風は冬型の気圧配置（西高東低）になった時に吹きます。

平安時代から江戸時代にかけては、石を温めて布でくるみ懐に入れた温石というものを使っていたそうです。今でいうカイロになります。

冬の足音が近づいています。暖をとるために、これからカイロの出番が増えそうですね。